

総住宅数は 487,700 戸に上昇  
～空き家率は 18.1%と過去最高に～  
平成30年住宅・土地統計調査 結果の要約  
(香川県分)

総務省統計局から令和元年9月30日に公表された平成30年住宅・土地統計調査の香川県分の確報集計から、結果をまとめたものです。

## I 調査の概要

住宅・土地統計調査は、住宅及び住宅以外で人が居住する建物に関する実態並びに現住居以外の住宅及び土地の保有状況、その他住宅等に居住している世帯に関する実態を調査し、住生活関連諸施策の基礎資料を得ることを目的として、昭和23年以来5年ごとに実施され、平成30年は15回目に当たります。

今回の調査では、全国で約370万戸、うち香川県は約2万6千戸を抽出し、平成30年10月1日現在で総務省統計局が都道府県、市町村を通じて実施しました。

## II 結果の概略

### (1) 総住宅数、空き家率

- ・総住宅数は487,700戸で、総世帯数を87,900上回り、5年前に比べ17,200戸(3.7%)増加
- ・空き家率(別荘等二次的住宅を含む)は18.1%で、5年前に比べ0.9ポイント上昇し、過去最高を更新

### (2) 建て方

- ・一戸建は全体の67.6%、共同住宅は全体の28.4%で、5年前に比べ一戸建は2.4ポイント低下、共同住宅は1.3ポイント上昇、共同住宅の割合は一貫して上昇

### (3) 所有の関係

- ・持ち家の割合は69.3%、借家の割合は29.0%で、全国平均に比べ持ち家の割合は8.1ポイント上回っている。

### (4) 専用住宅の規模

- ・1住宅当たりの居室数は5.18室、居室の畳数は37.99畳、延べ面積は107.48㎡で、全国平均に比べそれぞれ0.78室、5.25畳、15.42㎡上回っている。

### (5) 高齢者等に配慮した設備

- ・高齢者等に配慮した設備(手すり等)がある住宅の割合は52.0%で、建築時期が平成23年～27年のものが64.8%、平成28年以降のものは69.8%と、新しい住宅では高い割合を示している。

### (6) 省エネルギー設備等の設置

- ・太陽熱を利用した省エネルギー設備等のある住宅の割合は8.0%で、全国平均の3.5%を4.5ポイント上回っている。

### (7) 居住面積水準

- ・最低居住面積水準以上の世帯の割合は94.0%で、全国平均の90.1%を上回っている。
- ・誘導居住面積水準以上の世帯の割合は66.0%で、全国平均の57.2%を上回っている。

### (8) 高齢者のいる主世帯

- ・65歳以上の高齢者のいる主世帯の割合は47.1%で、全国平均の42.0%を上回り、過去最高を更新

### Ⅲ 結果の要約

#### 1 総住宅数は487,700戸、空き家率は18.1%

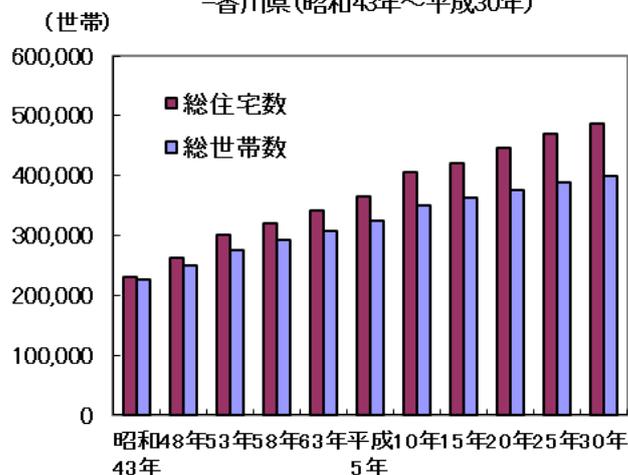
平成30年10月1日現在における香川県の総住宅数は487,700戸、総世帯数は399,800世帯となっており、総住宅数が総世帯数を87,900上回っている。

平成25年から5年間に総住宅数は17,200戸(3.7%)、総世帯数は10,300世帯(2.6%)とそれぞれ増加している。

総住宅数のうち、居住世帯のある住宅は397,600戸(住宅全体の81.5%)、居住世帯のない住宅は90,100戸(18.5%)となっている。

居住世帯のない住宅の大半を占める空き家は88,200戸となっており、総住宅数に占める割合(空き家率(別荘等二次的住宅を含む))は18.1%で、平成25年の17.2%から0.9ポイント上昇している。

図1 総住宅数及び総世帯数の推移  
-香川県(昭和43年~平成30年)



#### 2 共同住宅の割合はさらに上昇

居住世帯のある住宅を建て方別にみると、一戸建は268,600戸で住宅全体の67.6%、長屋建は15,300戸で3.8%、共同住宅は113,000戸で28.4%となっている。

平成25年と比べると、一戸建は1.0%減に対し、共同住宅は7.4%増となっており、一戸建の割合は低下傾向にあるのに対し、共同住宅の割合は一貫して上昇を続けている。共同住宅を階数別にみると、「1・2階建」が2.2%増、「3~5階建」が7.0%増、「6階建以上」が13.1%増となっている。

図2 住宅の建て方別割合の推移  
-香川県(昭和58年~平成30年)

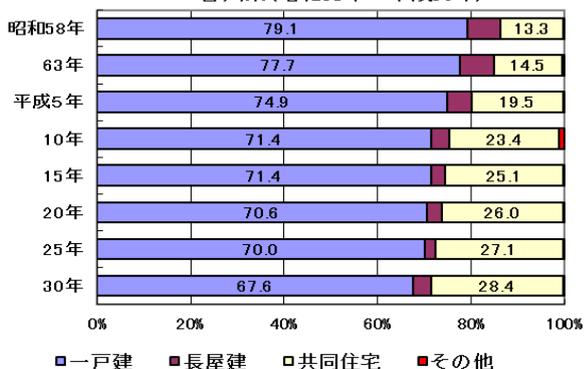
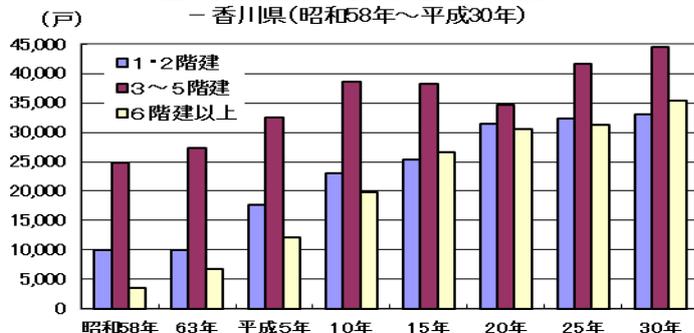


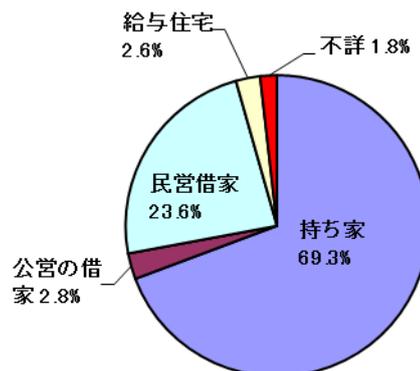
図3 共同住宅の階数別住宅数の推移  
-香川県(昭和58年~平成30年)



#### 3 持ち家住宅率は69.3%

住宅を所有の関係別にみると、持ち家は275,400戸で、住宅全体に占める割合(持ち家住宅率)は69.3%、借家は115,200戸で29.0%となっており、持ち家住宅率は平成25年の71.0%から1.7ポイント低下している。これを全国の結果と比較すると、全国の持ち家住宅率は61.2%で、本県の方が8.1ポイント上回っている。

図4 住宅の所有の関係別割合  
-香川県(平成30年)



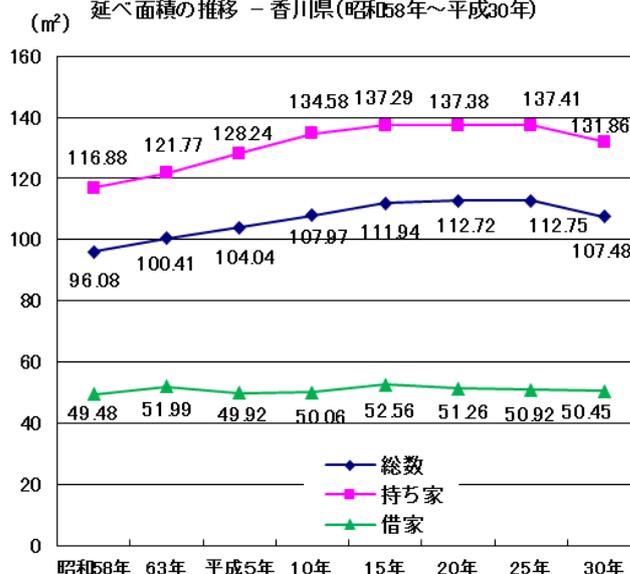
#### 4 専用住宅の規模は全国平均を上回る

居住専用に建築された「専用住宅」について、その規模をみると、1住宅当たりの居住室数は5.18室、居住室の畳数は37.99畳、延べ面積は107.48㎡となっており、平成25年に比べ、室数は0.29室減少、畳数は0.04畳減少、延べ面積は5.27㎡減少している。

全国平均は、居住室数は4.40室、居住室の畳数は32.74畳、延べ面積は92.06㎡となっており、いずれも本県の方が上回っており、専用住宅の規模は全国平均よりも大きくなっている。

専用住宅を所有の関係別にみると、持ち家の1住宅あたり居住室数が6.17室、居住室の畳数が45.66畳、延べ面積が131.86㎡となっているのに対し、借家ではそれぞれ2.86室、20.05畳、50.45㎡といずれも持ち家の半分以下となっている。

図5 持ち家・借家別にみた専用住宅の1住宅当たり延べ面積の推移 - 香川県(昭和58年~平成30年)



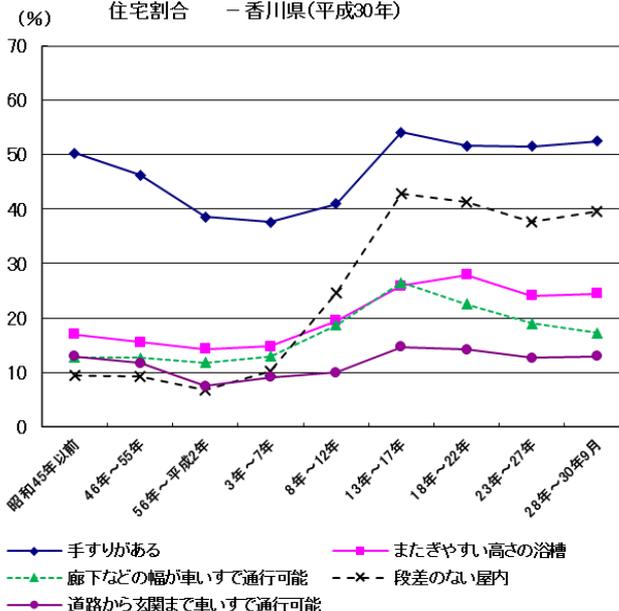
#### 5 高齢者等に配慮した設備がある住宅は最近建築された住宅では約7割

高齢者等に配慮した設備がある住宅の割合は、52.0%で、5年前より2.0ポイント低下した。内訳は、住宅内に手すりがある住宅が住宅全体の43.4%（手すりの設置場所は、階段が27.9%、浴室が24.0%、トイレが21.7%）、またぎやすい高さの浴槽がある住宅が18.0%、廊下などの幅が車いすで通行可能な住宅が15.2%、段差のない屋内となっている住宅が19.1%、道路から玄関まで車いすで通行可能な住宅が10.6%となっている。

最近建築された住宅で高齢者等に配慮した設備がある住宅の割合は高くなっており、平成28年~30年9月に建築された住宅では69.8%となっている。

またぎやすい高さの浴槽を設置している住宅の割合は、平成18年~22年に建築された住宅が最も高いが、それ以外の設備がある住宅の割合は、平成13年~17年に建築された住宅で最も高くなっている。

図6 建築の時期別にみた高齢者等のための設備がある住宅割合 - 香川県(平成30年)

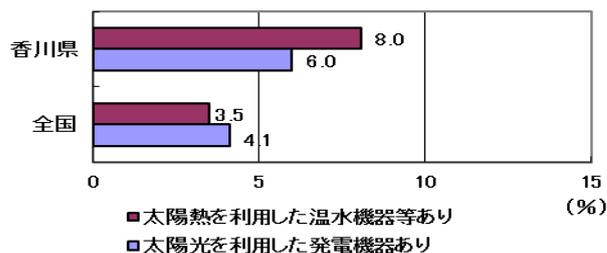


#### 6 太陽熱を利用した省エネルギー設備等の設置率は全国平均を上回る

省エネルギー設備等のある住宅についてみると、「太陽熱を利用した温水機器等がある」住宅は32,000戸で、住宅全体に占める割合は8.0%となっている。また、「太陽光を利用した発電機器のある」住宅は23,800戸で6.0%となっている。

全国の結果をみると、それぞれ3.5%、4.1%となっており、本県の省エネルギー設備等の設置率は全国平均を上回っている。

図7 太陽熱、太陽光を利用した省エネルギー設備等の設置率 - 香川県・全国(平成30年)

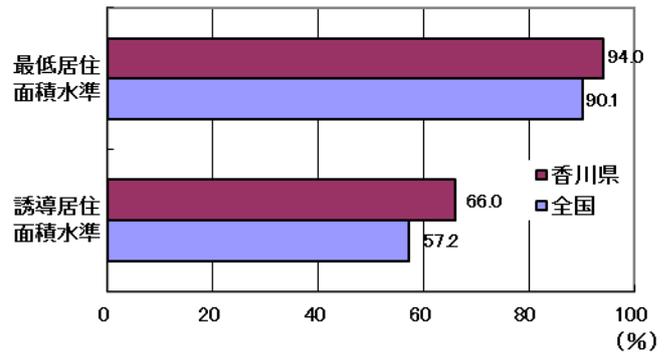


## 7 誘導居住面積水準以上の世帯は6割を超える

最低居住面積水準は、健康で文化的な住生活を営む基礎として必要不可欠な住宅の面積に関する水準として設定されており、平成30年における最低居住面積水準以上の世帯の割合は94.0%で、全国の90.1%を3.9ポイント上回っている。

誘導居住面積水準は、豊かな住生活の実現の前提として多様なライフスタイルに対応するために必要な住宅の面積の水準として設定されており、平成30年の誘導居住面積水準以上の世帯の割合は、66.0%で6割を超えている。全国の割合は57.2%となっており、本県の方が8.8ポイント上回っている。

図8 居住面積水準別水準以上の世帯の割合  
- 香川県・全国(平成30年)



### 【最低居住面積水準】

例えば、二人以上の世帯の場合の床面積の合計が、 $10 \text{ m}^2 \times \text{世帯人員} + 10 \text{ m}^2$

### 【誘導居住面積水準】

一般型と都市居住型があり、例えば、一般型で二人以上の世帯の場合の床面積の合計が、 $25 \text{ m}^2 \times \text{世帯人員} + 25 \text{ m}^2$

## 8 高齢者のいる主世帯は47.1%

高齢者のいる主世帯は、平成30年は187,200世帯で、主世帯全体の47.1%を占めており、調査のたびにその割合は上昇している。全国の割合は42.0%で、本県は全国平均を大きく上回っている。

高齢者のいる主世帯を世帯の型別にみると、高齢単身世帯と高齢者のいる夫婦のみの世帯の合計が、高齢者のいる主世帯全体の59.2%を占めている。これは、平成25年の54.7%から4.5ポイント上昇し、高齢者のいる世帯の小規模化が進んでいることを示している。

### 【高齢者のいる主世帯】

65歳以上の世帯員がいる主世帯をいい、次の三つの型に区分される。

- ① 高齢単身世帯……………65歳以上の単身の主世帯
- ② 高齢者のいる夫婦のみの世帯……夫婦とも又はいずれか一方が65歳以上の夫婦一組のみの主世帯
- ③ 高齢者のいるその他の世帯……………高齢者のいる世帯から上記の二つを除いた主世帯  
(高齢者と生計を共にするその他の世帯員で構成される主世帯)

高齢者のいる主世帯について、住宅の所有の関係別割合をみると、持ち家が89.0%と、主世帯全体の持ち家割合(69.3%)を大きく上回っている。特に、高齢者のいるその他の世帯では、持ち家の割合が高く、93.3%となっている。一方、高齢単身世帯では、持ち家の割合が78.2%と低くなっている。

また、住宅の建て方別割合をみると、一戸建が87.9%、長屋建が2.1%、共同住宅が9.8%、その他が0.2%となっている。特に、高齢者のいるその他の世帯では、一戸建の割合が高く、93.3%となっている。

## 9 全国平均との比較

区 分	香 川 県	全 国 平 均
住宅関係 総住宅数	487,700戸	—
空き家率	18.1%	13.6%
一戸建率	67.6%	53.6%
共同住宅率	28.4%	43.6%
木造率	67.4%	57.0%
持ち家住宅率	69.3%	61.2%
1住宅当たり量数	37.99量	32.74量
1住宅当たり延べ面積	107.48㎡	92.06㎡
1人当たりの量数	16.12量	14.11量

注)      は、全国平均を上回るものを示す。

## IV 利用上の注意

数値は、表章単位未満の位で四捨五入しており、また、総数に不詳を含んでいるため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しない。